

第19回

'08選抜女子駅伝 北九州大会

□ 期 日 / 2008年1月20日 (日)
□ コース / 小倉北区・小倉城歴史の道一
八幡西区・ホテルクラウンパレス北九州
折り返し 32.8km

一般の部 5 区間 高校の部 6 区間

順位

一般の部

1	豊田自動織機(千葉)	1° 44'58"
2	九電工(福岡)	1° 47'32"
3	OKI(宮崎)	1° 48'37"
4	アルゼアスリートクラブ(千葉)	1° 48'52"
5	十八銀行(長崎)	1° 49'07"
6	セカンドウィンド(東京)	1° 49'46"
7	パナソニック(神奈川)	1° 50'15"
8	TOTO(福岡)	1° 50'33"
9	デオデオ(広島)	1° 50'51"
10	ヤマダ電機(群馬)	1° 50'52"
11	北九州市一般選抜(福岡)	1° 53'56"
12	環微研(大分)	1° 55'01"
13	アコム(東京)	1° 56'02"
14	ナンチク(鹿児島)	1° 57'35"

区間賞

第1区(4.2km)小林祐梨子(豊田自動織機) 13'09"
第2区(5.9km)カンフーダカバ(豊田自動織機) 18'41"
第3区(5.1km)宮崎 翔子(豊田自動織機) 16'05"
第4区(5.9km)野原 優子(豊田自動織機) 19'55"
第5区(11.7km)脇田 茜(豊田自動織機) 37'08"

高校の部

1	立命館宇治(京都)	1° 48'03"
2	北九州市立(福岡)	1° 48'42"
3	筑紫女学園(福岡)	1° 49'13"
4	須磨学園(兵庫)	1° 49'24"
5	神村学園(鹿児島)	1° 49'47"
6	千原台(熊本)	1° 49'55"
7	興譲館(岡山)	1° 50'27"
8	山田(高知)	1° 51'13"
9	小林(宮崎)	1° 51'54"
10	諫早(長崎)	1° 52'06"
11	鳥取中央育英(鳥取)	1° 53'39"
12	柳川(福岡)	1° 55'19"
13	中村女子(山口)	1° 55'50"
14	名護(沖縄)	1° 56'40"
15	八幡浜(愛媛)	1° 57'59"
16	北九州市高校選抜(福岡)	1° 58'15"
17	世羅(広島)	1° 59'34"

区間賞

第1区(4.2km)堤 愛華(興譲館) 13'30"
第2区(5.9km)永田 あや(小林) 18'54"
第3区(5.1km)小原 怜(興譲館) 16'14"
第4区(5.9km)竹中 理沙(立命館宇治) 20'00"
第5区(4.9km)本多奈都子(立命館宇治) 16'03"
第6区(6.8km)今田麻里絵(北九州市立) 21'20"



初出場で区間賞独占の完全優勝を飾った豊田自動織機・脇田茜

一般の部

豊田自動織機が史上初の完全優勝 小林が流れ作り、区間賞独占

初出場の豊田自動織機が大会史上初めて区間賞を独占して初優勝を飾った。1区で1500mの日本記録保持者、小林祐梨子が飛び出すと、そのまま「一人旅」。2位に2分34秒の大差をつけた。初出場初優勝はダイハツ(第13回)、ワコール(第15回)に次いで3回目。

この大会は日本実業団陸上競技連合の主催レースではないため、登録問題で揺れる小林も1区で出場。冷たい雨が降り続く中、800m付近で飛び出し、2位と16秒差で2区へ。2区のウィンフリーダ・ケバソが後続との差を1分13秒に広げて勝負をつけた。

九電工は2区の西尾麻耶が区間5位の誤算で、後続もリズムに乗れず、トップをうかがえぬまま2位でフィニッシュ。堅実にタスキリレーを見せたOKIが3位。アルゼは那須川瑞穂、堀江知佳の2枚看板が活躍して4位。チームとして初駅伝のセカンドウィンドは6位だった。

小林祐梨子・豊田自動織機1区 「スタート前、このユニホームを着て走れるんだと嬉しかった。(区間賞を取った前週の都道府県女子駅伝とこの選抜女子駅伝の)二つの駅伝で成長している姿を見せたかった。アピールできる走りができた」

平林裕視・豊田自動織機監督 「(全日本実業団駅伝は小林が出場できずに予選落ち)小林が流れを作ってくれた。やはり駅伝は流れだね」

浦川哲夫・九電工監督 「全員、体が動いていない。面白くない」

高校の部

都大路王者の立命館宇治が6年ぶり頂点 須磨学園の5連覇阻む

全国高校駅伝王者の立命館宇治が6年ぶり2回目の優勝を飾り、須磨学園の5連覇を阻んだ。4位でタスキを受けた4区の竹中理沙が一気にトップに立ち、そのまま逃げ切った。

立命館宇治は1区2位の滑り出し。2区で4位に順位を下げたが、先頭と約1分差でスタートした4区の竹中が中盤から大きなストライドで飛ばし、中継所1km手前で興譲館の友野杏梨を捕らえてトップに立った。続く5区の本多奈都子も区間賞、独走態勢を築いた。大会2日前に全国優勝メンバーの沼田未知が乗用車と接触し、左手の甲にひびが入って走れなくなったが、選手層の厚さでカバーした。

戸畑商から校名変更した北九州市立が中盤から順位を上げ、最終6区の今田麻里絵が区間賞の力走、ライバルの筑紫女学園をかわし、2位に食い込んだ。逆に筑紫女学園は全国高校駅伝福岡県予選に続いて北九州市立の後塵を拝した。5連覇に挑んだ須磨学園は4位。都大路2位の千原台は流れに乗れず6位に終わった。

荻野由信・立命館宇治監督 「うちの選手は自分の役割を理解している。(沼田未知の欠場など)多少のことがあっても誰かが立て直す」

竹中理沙・立命館宇治4区 「勝つためには私が順位を上げなければならないと思いながら走った」

本多奈都子・立命館宇治5区 「沼田さんに代わって出場したが、私に沼田さんのような力はない。つなぎに徹しようと思った」



6年ぶり2回目の優勝を果たした立命館宇治のアンカー池本がいり